愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	健康実践演習		
担当者(Instructors)	中野 匡隆	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

人間健康学の実践領域である「身体」「心」「福祉」の3領域から、それぞれの学びの入門的体験、参加型体験を演習形式で行う。人間健康学の学習は、個々の知識・スキルを伸ばすことにとどまらず、学生相互の学び合い、教え合いの中から、また地域社会の他者とのかかわり・コミュニケーションの中から身についていくものであることから、実践演習をとおして学ぶ。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	領域によって、地域課題解決、見学・手伝い、サッカー教室・体操教室・高齢者運動教室、短期の災害ボランティア、障がい者スポーツ支援など、＜WS型＞＜教室運営型＞＜体験型＞＜測定・評価型＞の方法を適宜採用し、組み合わせて行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス 人間健康学実践のイントロダクション	実践演習全体のガイダンスを行い、人間健康学実践の導入として、体温調節について学び、今後の見通しをもつ。	□
第2回	生涯スポーツ	生涯学習としてのスポーツの意義の社会における課題について、実践演習をとおして学ぶ。	□
第3回	認知心理学	認知心理学の構造と機能についての入門的な内容を実践演習をとおして学ぶ。	□
第4回	スポーツトレーニング	ストレングスとコンディショニングについて、総合演習（2年学生）学生の指導により、体験・実践演習をとおして学ぶ。	□
第5回	保健体育教育	保健体育教育について、総合演習（2年学生）学生の指導により、体験・実践演習（ワークショップ）をとおして学ぶ。	□
第6回	子どものスポーツ	子どものスポーツ指導について、総合演習（2年学生）学生の指導により、体験・実践演習（ワークショップ）をとおして学ぶ。	□
第7回	スポーツ心理	スポーツ心理について、総合演習（2年学生）学生の指導により、体験・実践演習（ワークショップ）をとおして学ぶ。	□
第8回	心理的支援	心理的支援について、総合演習（2年学生）学生の指導により、体験・実践演習（ワークショップ）をとおして学ぶ。	□
第9回	臨床心理	臨床心理について、総合演習（2年学生）学生の指導により、体験・実践演習（ワークショップ）をとおして学ぶ。	□
第10回	学校保健	学校保健について、総合演習（2年学生）学生の指導により、体験・実践演習（ワークショップ）をとおして学ぶ。	□
第11回	認知症ケア	認知症ケアについて、総合演習（2年学生）学生の指導により、体験・実践演習（ワークショップ）をとおして学ぶ。	□
第12回	食と健康	食と健康について、総合演習（2年学生）学生の指導により、体験・実践演習（ワークショップ）をとおして学ぶ。	□
第13回	道徳教育	道徳教育について、総合演習（2年学生）学生の指導により、体験・実践演習（ワークショップ）をとおして学ぶ。	□
第14回	レポート指導	実践演習全体をとおして、学んだ内容をレポートにまとめるにあたってのレポート作成指導を行う。	□
第15回	ふりかえり・まとめ	実践演習全体をとおして、ふりかえりを行い、経験をとおして学んだ内容をまとめる。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

次回授業のテーマに関する情報をインターネット・図書館などを通じて調べる（予習2時間）。 演習で実践したテーマ課題について、日常生活の中でふりかえり、社会における現状や課題を調べて考察を深める（復習2時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

Teams上に提示する演習内課題、小テスト、および記述式課題については、Teamsをとおしてコメントをし、フィードバックを行う。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019人間健康DP1	心身の健康増進に関する体験的・実践的な専門的知識・実践的能力を身につけている。
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	健康、スポーツ、心理、福祉などの体験・実践分野における問題意識を持ち、参加協働型で解決方法を探求できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

課題

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業の中で適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	愛知東邦大学人間健康学部編（2022）『人間健康学』唯学書房	
2		
3		
4		
5		